

達はすぐすこと帰つて行つたし、疎開の学童達も一ぺんにつまらなそ
うな顔で、各宿舎に帰つて行つた。

あとから贊美歌でも歌つたのかと聞いたら、学童達はただ首を横に
ふるばかり。遠藤牧師さんは、たびたび日曜学校の生徒を連れて慰問
に来て下さつた。何度根岸刑事の怒声に止めさせられても。

何しろ卒業の時歌う螢の光も敵英國のメロディーだからと十七年
三月からの卒業の各学校も禁止となり、外来語は一切駄目、レコード
も円盤と言わせられた時代であり、キリスト教等への弾圧もひどかつ
たと思う。

遠藤牧師さんは私の実家と親交の深かつた御一家だけにどうして
いられるかと案じていたが、信者の方々が食糧は密かに運んでいられ
ると聞き安心した事を思い出す。

〔注〕特高とは、旧警察制度に於ける政治警察であり、特高警察とも略
称され大逆事件（明治四十三年～四十四年 明治天皇暗殺計画）とい
う容疑で多数の社会主義者が逮捕処刑された事件）を機に明治四十年首
相西園寺公望の時警視庁に特別高等課（昭和七年部に昇格）が置かれ、
昭和三年各県にも設置、内務省直轄下に治安維持法などに基づき、警
察国家の主体として、自由主義、共産主義運動などを弾圧、昭和二十
年廃止。（百科事典マイペディア参照）

遠藤牧師さんというと、昭和十六年晚秋の頃だつたろうか。暫く御
無沙汰をしていたので御宅をお訪ねすると、牧師さんは袴の着物姿で
南の縁側でぼつねんと南の空の方を見ていられた。その視線の先は、
今盛んに銃声のしている神社の森にむけられていた。

伊佐須美神社では、何百年いやそのもつともつと以前からかもしれ
ない昔からの境内の大木に巣をかけ雛を育てている鶴や五位鷺を立

木を枯らすからという理由で猶友会の人達に頼み銃で撃つてある。鳥
は日本海や太平洋まで飛び魚を捕つて来て雛に食べさせている。夜鳴
きながら渡つていく鳥の声の懐かしさを布団の中で聞いていた幼い
日を思い出す。今銃の音のする度に飛び立つ鳥、真っ逆さまに落ちる
鳥の惨たらしさ。たまらなく心が痛む。「なあタカちゃん。大昔から
住んでる鳥まで殺せと神様がおつしやるのかなあ、果たしてもの言え
ぬ鳥までこんな事して戦に勝てるのか」ぽつんと言葉を切られた牧師
さんの横顔がとても淋しそうだったのが忘れられない。

しかし遠藤牧師さんは、戦後に素晴らしい御活躍と明るい光が当
たり、本当に良かったと心から嬉しく思つてゐる。

おみな吾ら銃後を必死に守る為

辛きに耐えんと励ましあいき

太平洋戦争の始まつたあの頃からだつただろうか。町の住民にひど
く恐れられていた根岸特高刑事の横暴について、長く町議であり三業
組合長（旅館、割烹、飲食店）の義父の所に度たび町の人達や組合員
から相談があつた。まさか警察に話す訳にもいかず、話した事がわ
ればかえつて後難が恐ろしいからと、皆泣寝入りの有様だつたので義
父は親しかつた警察署長に相談したら「自分も困つてゐるが管轄が違
うので」と言われたので、署長の立場も考え誰にもこの事は言わず終
戦になつてはじめて家族に話した。

昭和十八年十二月中旬、夫の出征の為生後二ヶ月に満たない娘を抱
いて東京から嫁家に帰つて來た私は、女中が一人共勤労動員で軍需工
場に行つたことを知つた。当時は全国の旧制中学生や女学生は勿論、